

「Waseda Next 125」と図書館運営にかかる諸施策(実行計画)について

「Waseda Next 125」は、2007年に創立125周年を迎えた早稲田大学が、2008年度以降の10年間を目標とし、早稲田大学の将来像およびその実現に向けて早稲田大学が取り組むべき方策を明らかにしたものである。昨年度、「Waseda Next 125」関連の各委員会より答申書が提出されたが、図書館は図書館協議会がとりまとめた答申書『「Waseda Next 125」と図書館の戦略的課題』を理事会に提出した。

答申書を受け理事会は、2008年5月『「Waseda Next 125」理事会の考え方』を示した。図書館は、総長、メディアネットワークセンター所長、遠隔教育センター長との懇談会や、総長と図書館との複数回にわたる懇談結果を踏まえ『「Waseda Next 125」と図書館の戦略的課題』の諸課題を整理し2008年9月に『「Waseda Next 125」と図書館運営にかかる諸施策(実行計画)について』を策定した。策定にあたっては、焦眉の課題として理事会より示された「学部学生に対する学習支援強化に向けた新たな図書館サービスモデルの構築と展開」をその基本とした。以下にその概要を示す。

1 学習支援連携委員会の設置

全学基盤教育の確立に向けて、図書館に期待される新たな役割の具現化や各学術院において展開される教育研究活動と図書館サービスのより密接な連携の実現を目的とする「学習支援連携委員会」を2008年度内に設置する。本委員会は、図書館協議会とは別に組織し、各学術院の学部教務主任または副主任等と図書館長・副館長を基本構成メンバーとする。

特に、学部学生に対する学習支援の一層の充実、強化をめざし、本委員会において全学共通の枠組みの構築と各学術院ごとの取り組みについての検討をすすめるとともに若手教員と図書館職員の協働体制(WG)を課題別に設置し、実現可能なプランを図書館の重点施策として、2009年度より順次、実施する。例えば、図書館情報リテラシー教育科目の設置(カリキュラム上)が具体的な課題の一つとしてあげられる。

2 アカデミック・リエゾン制度の創設

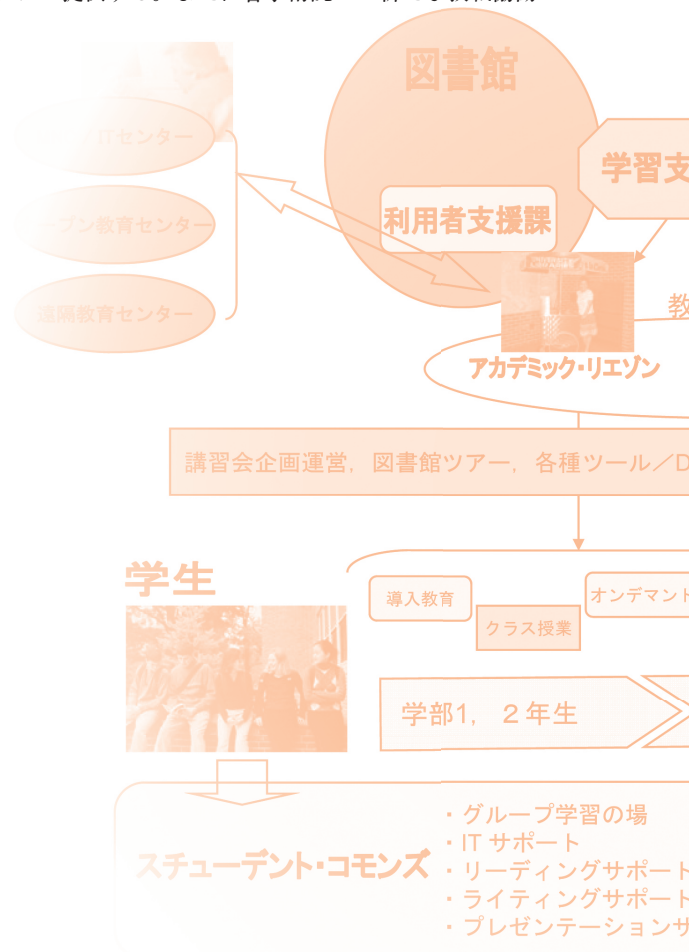
学習支援連携委員会の設置とあわせて、ここにおいて検討される各学術院との連携を具体的に実現することを目的として利用者接点業務にあたるすべての図書館専任職員をアカデミック・リエゾン(学習連携支援担当)として、その役割を位置付け、関連するメディアネットワークセンター、オープン教育センターや遠隔教育センターなどと密接な連携をはかりながら各学術院と連携による企画の策定、連絡調整、実施ま

での業務にあたる。また、このことに伴い、利用者接点業務にかかわる周辺の管理業務については、新たな業務委託化を含め検討をすすめる。あわせて、中央図書館総合閲覧課においては、アカデミック・リエゾン制度の中核を担う部署として全学に焦点をあわせた業務分掌とし、利用者支援課として再編する。

3 スチューデント・コモنزの整備

この間の早稲田キャンパスにおける学部学生読書室の整備状況(施設整備ならびにWINEネットワーク参入、利用規則の平準化とサービス時間、開室日数の拡充、拡大)と今後の施設計画を踏まえ、図書館による新たな学習支援サービスモデルを施設的に実現するために各キャンパスにおいてスチューデント・コモنزの整備を開始する。

スチューデント・コモنزにおいては、学部・学科横断的なグループ学習の場(コモنز)としての活用に加えて、学生が習得すべき基本的なリテラシー(リーディングスキル、ライティングスキル、情報スキル、プレゼンテーションスキル等)に関するサービスを、そこに常駐するアカデミック・リエゾンならびに専門の職員(ITセンター・他)から、日常的かつワンストップで提供する。また、各学術院との新たな教職協働



の具体的な枠組みとして、助教・助手、博士課程大学院生等による研究者の立場からの学習支援サポートも実施する。

当面、中央図書館2階の一部と4階のAVホールをスチューデント・コモンズとしての施設整備の対象とする。

(『「Waseda Next 125」と図書館の戦略的課題』より抜粋)

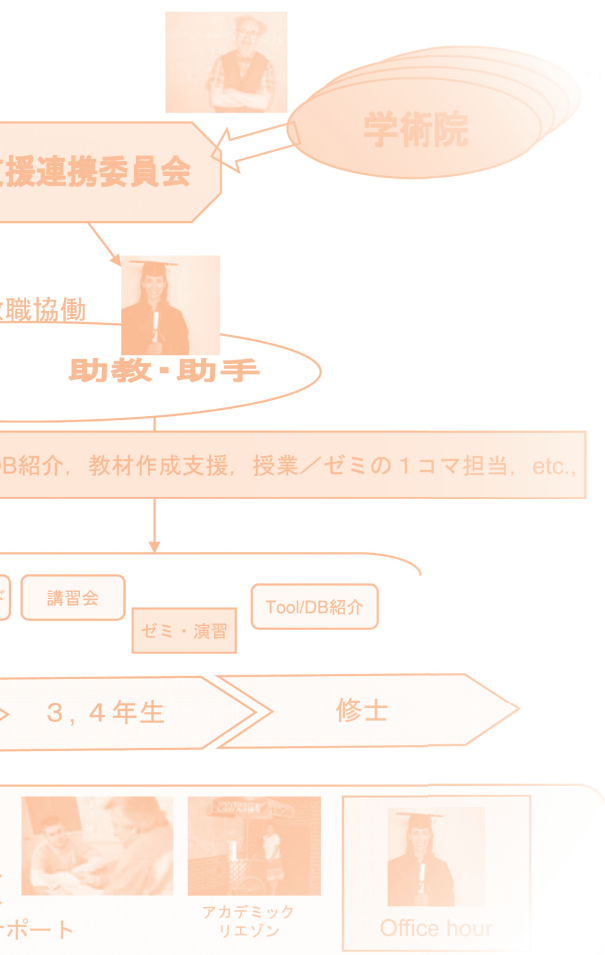
図書館は「教育の早稲田」を実現するために：

- ・教育、学習支援に必要とされる情報資源を提供する
- ・教員、学生による情報資源の利用を積極的に支援、推進する

教員、学生による学術情報資源の有効な活用を積極的に支援し、基盤的教育の充実を図るために、学部、大学院、オープン教育センター、メディアネットワークセンター、遠隔教育センターなどと連携して、全学的な図書館情報リテラシー教育の展開を推進する。(中略)

- ・教育、学習支援を支える図書館職員を計画的、組織的に育成する。
- ・学生の「自学自習」を支援し、より充実した情報資源の利用を可能とするサービスモデルを実現する

学生の「自学自習」に対応して、全学を対象とした汎用



的な図書館情報リテラシー教育に加え、学部、大学院等との連携のもと個別的なニーズに応えるサービスモデルを構築する。また、ここにおいて図書館職員の教育現場へのより直接的な参画をめざす。(中略)

4 早稲田大学リポジトリの構築と展開

ひきつづき、早稲田大学リポジトリに格納、提供されるコンテンツの充実を組織的にすすめるとともに、成果発信の強化の観点からリポジトリ構築と並行して開発されたオンライン・ジャーナル・システム (OJS) の学内関係箇所への普及、実装をすすめる。具体化の手始めとして、図書館刊行物の電子ジャーナル化を2009年度に実施する。また、本システムの実装を前提として、出版企画委員会等とも密接な連携をはかりながら英文による新たな成果発信媒体の創出を図書のイニシアチブによりすすめる。

5 古典籍総合データベースの構築と展開

2008年度までの古典籍総合データベースの構築の実績をふまえ、コンテンツのさらなる充実とあわせて2009年度より本データベースの利用と普及に主眼をおいた新たな事業展開をはかる。その事業展開の一環として、これまでのデータベース構築に主眼をおいた「プロジェクト室」の体制から、関係する学術院、教員との本データベース利用を中軸とした新たな連携の体制へと軸足を移行させる。すなわち、協力教員と図書館専任職員の連携・協働による同データベースの授業等への活用を2009年度中に具体化する。

(『「Waseda Next 125」と図書館の戦略的課題』より抜粋)

図書館は「研究の早稲田」を実現するために：

- ・学術情報資源の収集・提供の充実をはかる

研究者が必要とする学術情報資源をより有効にかつ迅速に収集・提供するためのIT環境・施設的環境の整備や図書館関係予算諸制度の見直しを進める。(中略)

- ・研究者支援体制および研究成果発信を強化する

個々の研究者へのより直接的な研究支援体制を強化し、生み出される研究成果(学位論文・学術論文など)に対する統合的なマネジメント支援(学術情報資源としての保存と発信)を実現することを目的として、高度な専門性を有する「リエゾンライブラリアン制度」を確立する。「リエゾンライブラリアン」は、研究、教育へのより直接的な関与をつうじて広範な研究教育支援を実現する。また、「リエゾンライブラリアン制度」を有機的、組織的、機動的に機能させるため、「リエゾンオフィス」(仮称)を設置する。(中略)